

■ 2009年度 入試問題分析シート ■

東京大学

前期日程

科目

地学

総括

試験時間	2科目 150分	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
満点(配点)	2科目 120点	分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉

大問数と出題形式、および天文分野と地球物理分野からの出題量が多いことは、例年通りである。また、第3問は地質分野と固体地球物理分野が融合した問題であり、全体としてかなり広範囲から問われている。全体的に良問で構成されているが、計算問題と論述問題の分量は、昨年同様にかかなり多く、時間内に解答するのは難しいであろう。

〈合格への学習対策〉

主に基礎を重視した問題で構成されているから、それに従って、高校の課程で履修する基本的な事柄を学習すればよいであろう。ただし、高得点を望むならば、日頃からいろいろな自然現象に関心を持ち、思考力と洞察力を高めておく必要があるだろう。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
第1問	計算	I・II	天文分野・系外惑星	系外惑星について、ケプラーの法則、食現象と惑星の半径、等級、惑星大気とドップラー効果など、多面的に取り扱った興味深い問題。	やや難
第2問 問I	論述 計算	I・II	地球物理分野(気象海洋)・大気の運動と熱輸送	偏西風波動と潜熱輸送を取り上げた問題。問題文の「風が吹いている向き」と「風向」の関係は、混同しやすいだろう。	やや難
第2問 問II	論述 計算	I・II	地球物理分野(気象海洋)・塩分と海水の運動	塩分や海水の運動について、海流のみならず、中層流、深層流についても取り扱った問題。	やや難
第3問	論述 計算	I	地質分野・地球物理分野(固体地球)・活断層と地震	問Iでは活断層から地震の長期的予知をおこなう問題。問IIでは地震の震源決定や断層の変位量などの諸量を求める問題。	やや難

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。